資料２

第２次岐阜県教育ビジョン

小・中学校における学力向上専門委員会　主な運営の流れ

★第１回専門委員会（５月２日）

・主な論点

１　本県における学力向上の取組と現状及び今後の方向等

最重点　＝「確かな学力」の育成

「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」

学校教育法　第３０条、第４９条

「学力向上」を核として義務教育のさらなる充実・発展を図るための、今後の取組の方向等について議論をしていただく。

・主な論点：**発達の段階に応じた効果的な指導方法、指導体制、地域連携体制等、学校における学力向上策の今後の在り方**

① 少人数指導の工夫・充実　→　基礎学力定着支援事業

② 教科担任等・小中連携の工夫　→　小学校からの教科専門性向上事業

③ 学力向上の基盤となる指導　→　学級経営、特活、生徒指導等
異校種間や地域との連携等

★第２回専門委員会（５月２８日）「学力向上実践研究校」代表参加依頼

・主な論点

①基礎学力定着支援事業の成果と課題【事務局と実践校からの報告→協議】

・少人数指導の工夫、習熟の程度に応じた指導の工夫、地域連携等の在り方や、基盤となる学級経営、人間関係づくりの大切さについて

②今後進めていくべき方向（協議）

★第３回専門委員会（６月下旬）「小学校からの教科専門性向上事業」代表参加依頼

・主な論点

①小学校からの教科専門性向上について【事務局と実践校からの報告→協議】

・学校の状況に応じた、教科担任等の工夫や小中連携による指導の工夫等や、基盤となる学級経営、人間関係づくりの大切さについて

②今後進めていくべき方向（協議）

６～７月　メール等を活用した継続的な情報交流・意見交換

★専門委員訪問★
支援課の訪問に合わせて、指定校を随時訪問（１人２校程度）

★第４回専門委員会（７月）小中連携、一貫に先駆的に取り組む学校等に参加依頼

○次期ビジョンへ書き込む報告内容の骨子案について【事務局提案→協議】

８月２３日：「学力向上フォーラム 8.23 in Hashima」へ自由参加

★第５回専門委員会（９月）

○次期ビジョンへ書き込む具体的な報告案について【事務局提案→協議】

★第６回専門委員会（１０月）

○次期ビジョンへ書き込む具体的な報告案について【事務局提案→協議】

第2次岐阜県教育ビジョン検討委員会

小・中学校における学力向上専門委員会　委員

	氏名（敬称略）	役　職　等	分　野
1	友田　靖雄	第２次岐阜県教育ビジョン検討委員 元岐阜聖徳学園大学教育学部　教授	学識経験者
2	清水　優子	岐阜市立本荘小学校長 （岐阜県小学校長会長）	小学校長
3	中島　康夫	岐阜市立本荘中学校長 （岐阜県中学校長会長）	中学校長
4	折戸　敏仁	岐阜県立山県高等学校長 （ステップアップカリキュラム研究開発推進校）	高等学校長
5	服部　和也	岐阜市教育委員会　学校指導課長	大規模校を設置する教委課長
6	片桐　一男	郡上市教育委員会　学校教育課長	へき地・小規模校を設置する教委課長
7	村瀬　里佳	岐阜県ＰＴＡ連合会　母親委員長	保護者
8	内田　晴代	岐阜県社会教育委員 元岐阜市民生涯学習推進協議会委員 山県市学校支援地域本部事業貢献者	地域貢献者

岐阜県教育ビジョン検討委員会

第１回　小・中学校における学力向上専門委員会　主な意見

Ｈ２５．５．２（木）ＰＭ１～３時　教育委員会室

◆◇主な意見◆◇

①「授業の在り方・指導方法」について

・Ｂ問題に比べてＡ問題の正答率が伸び悩むのは習熟を図る時間がないなど、授業の展開に課題があるのではないか。

・質問紙調査で「勉強が好き」「役に立つ」の数値が低い。義務教育段階では、具体と抽象のやりとりを大切にし、具体にもどるという意味から、体験的・具体的な活動を行うことで、「勉強が好き」「役に立つ」と実感できるようになるのではないか。

②「教科担任制」について

・小学校では、生活が安定すると学習が安定してくる。しかし、今の児童生徒をみていると、「生活が安定すると学習が安定する」のは４年生頃までで、５，６年についていえば、「学習が安定してくると生活が安定する」面があると感じる。その意味では、小学校高学年で教科担任制を行うことは非常に意味がある。

③「習熟度別少人数指導」について

・学校では、習熟度別少人数指導のおかげで、下位１０％の児童生徒も分かったという実感をもって授業を終えている。しかし、次の日にはできなくなっている。下位の児童生徒こそ単に繰り返せばよいというわけではなく、寄り添って筋道を教え、学ぶ喜びを味わわせることが大切。中位の児童生徒は繰り返し学習で伸びる。個の学習状況に寄り添って指導することが習熟度別少人数指導のよさである。

④「仲間づくり」について

・仲間と学び合いながら進める学習は岐阜県が大切にしてきたものであり、学級づくり・人間関係づくりの根本を生かすもので、小学校でこそ必要である。岐阜県の施策に、コミュニケーションや仲間づくりを入れていくことは必要である。

⑤「家庭学習」について

・基礎学力の習熟・定着のためには家庭学習と学校との授業とをつなげることが大切である。保護者との連携を充実する必要がある。

⑥「地域との連携」について

・地域との連携では、地域から学校への働きかけが多い。学校から地域へ働きかけることが多くなるとよい。家庭学習についても、自分から進んで取り組む児童生徒を支えるのは地域である。祖父母が一緒に九九をやるなど地域人材を活用してもよい。

⑦「高等学校への連続」について

・高校へは基礎学力が十分に身に付いていない生徒も入学してくる。学ぶ喜びを小・中・高ともに意識することが大切である。高校では、先の進路や将来を見据えた力は何かを考え、より伸ばしたい学力を身に付けさせていくことが役割と考えている。

⑧「へき地・小規模校での学力向上」について

・へき地・小規模校を設置している市町村教育委員会では、４点について危機感をもっている。１点目は過疎化の問題。地域住民に過疎地が大事にされていないのではないかという不安がある。２点目は予算の問題。合併交付税の交付期限が切れたときに、どのように予算を組むのか。３点目は少子化の問題。１学級１０人程度の学校でどのような指導をするのかを考えないといけない。４点目は、教員の確保の問題。勤務の本拠地が本市の教員だけでは不足してしまう。学校が地域の中核となり、地域に残ってくれる教員を増やすことが必要となっている。

⑨「成果指標」について

・指標として、全国学力・学習状況調査の結果について全国比で示すことばかりではなく、岐阜県らしい別の指標を設定すべきである。